

野口栄一郎先生のメッセージ

今回はシニア自然大学校さんの自然観察会に、日本での知名度という点ではまだ知る人だけが知るビキン川流域・ビキン国立公園のウスリータイガをお選びいただきまことにありがとうございました。あらためてお礼申し上げます。早速お知らせいただきましたご感想を拝読しました。今年は例年より気温が低いのではないかと案じておりましたが、初秋のウスリータイガの黄葉、お楽しみいただけたようで良かったです。僕も、先生や岩佐さんや西尾さん・参加者のみなさんからお話を聞かせていただいたり写真を見せていただいたりして、今回の自然観察会のようすを追体験することができればと思っております。（クラスニヤール村の人たちや国立公園の人たちも、きっと自然を大事に思う方々にビキンで過ごしていただくことができたことが誇らしかったと思います。）宮田さんや佐々木さんからも八日間の様子を教えてもらい、解決や改善の必要なことがらがあったか、タイガフォーラムとしましても把握するように努めます。国立公園がオープンしたことで、ビキンのタイガ保全やツーリズムはいま、人や受け入れ体制が新しくなったところですが、タイガフォーラムもワイルド・ナビゲーションさんも、これからもビキンのタイガを歩いてみたい方々をご案内できるよう、体制を作っていこうとしておりますので、今後ともなんでもご遠慮なくおっしゃっていただければ幸いです

ウスリータイガやビキン川流域が先生の「森里海連環学」とも繋がりましたら非常に嬉しいです。僕らでできることもございましたら頑張ります。魚たちも、首を長くして(?)また先生やみなさんがお越しになるのを待っているかもしれません。どうぞ、いろいろな方に、こんな川へ行ってきた、こんな森が、こんな樹があった、こんな人たちがいた、とお話してください。（そうしていただくことが僕にとっても望みで、非常に嬉しいです）ビキン川のハリウス（カワヒメマス）、レノック（コクチマス）、シューカ（カワカマス）、みな美味しい魚です。これからもビキンの人々が守っていくと思いますので、どうぞ、また釣りにいらしてください。タイメン（イトウ。ビキン川に泳いでいるのはアムールイトウです）も個体数は決して多くありませんが、ビキンのウスリータイガや河畔林、コンクリート等のない自然が守られ、国立公園やクラスニヤール村の人たちが密漁やオーバーフィッシングから守ってくれているかぎり、いつかヒットするかもしれません。では、お忙しいところ早速旅の様子をお知らせいただきありがとうございます。日本でもロシアでも、良き魚、良き釣り仲間と出会えますように。ビキン川のイトウ（大きいものだとな全長1メートルくらいあります）もいつかヒットしますように。（釣り上げてタモ網に入れるまで1時間くらい格闘する方もいます）



タイガフォーラム 野口 栄一郎

地球環境「自然学」講座「ウスリータイガ観察会」エスコートガイド

佐々木 勝教さんのメッセージ

初めまして、国際環境 NGO FoE Japan (エフ・オー・イー・ジャパン) 森林担当の佐々木と申します。FoE (Friends of the Earth) グループは、世界 76 か国にグループ団体を持つ環境団体です。FoE Japan は、1980 年に創設され、気候変動、開発と金融、森林等の環境問題に対し、日本に暮らす市民という立場から、その解決のための取り組みを進めています。

この度、縁があってタイガフォーラムの野口さんより「ウスリータイガ観察会」のツアーエスコートとしての打診を受け、同行・通訳として参加させていただくことになりました。既にご存知のことと思いますが、日本からほど近いロシア極東の沿海地方には、北海道や東北にかつてあり、既に失われてしまった素晴らしい自然が残されています。その豊かな森林生態系が、ヘラジカやアカシカ、イノシシなどの大型哺乳類を育て、アムール川を通じて日本近海の水産物をも豊かにしています。そして、この森の生態系の頂点には、ネコ科最大と言われるアムールトラが生息しています。

このような生物多様性豊かな森にとっての重要な存在として、先住民族ウデヘがいます。彼らが狩猟を生業とし森に生きてきたことが、大規模な開発を退け、現在に至るまでこの森を残してきた大事な要因になっています。市場経済が台頭するなか、彼らがこれからどのように生きていくのか。その行く末は、私たちにも深く関わっています。

2004～2009 年まで、タイガでの活動に関わり、ツアーでの通訳やコーディネート、ウデヘの民芸品開発などのプロジェクトに携わってきました。毎日の生活に忙しく、タイガの美しさや村での生活について、自ら発信することが必ずしも得意とは言えなかった彼らですが、取り組みを続けていくなかで新たに気づき、自ら変わろうとした瞬間を数多く見してきました。そのひとつが、皆さまが参加するタイガツアーです。豊かなタイガの森を残しながら今の世界を生き抜くために。皆さまの参加が、ウスリータイガの大切さを実感するだけではなく、ウデヘや彼らがくらす豊かな森の未来を支える交流となることを、切に願っています。

【略歴】

1972 年（昭和 47 年）秋田県生まれ。

東京外国語大学地域文化研究科ヨーロッパ第三専攻修了。

ロシア語翻訳・通訳会社へ勤務後、2004 年から FoE Japan (エフ・オー・イー・ジャパン)

ロシアタイガプログラム勤務。

極東ロシアの森林生態系保全プロジェクトに従事する（～2009 年）。

2006 年からは森林担当も兼任し、ロシア・中国の森林セクターの調査・普及、インドネシア・ジャワ島における森林生態系保全プロジェクト等を実施。

2011 年からは、東日本大震災後の地域型復興住宅事業および海岸防災林再生活動にも従事している。また、木材消費国の違法伐採対策として、木材生産地の環境・社会に配慮した木材“フェアウッド”の調達推進や普及啓発活動に取り組む。

【連絡先】

自宅住所：〒171-0052

東京都豊島区南長崎 1-7-3-106

TEL：080-6899-5603

